

IV 看護協会の課題

会員がこれからの活動の中で、特に何に力をいれて取り組むべきと思っているのか、つまり、会員が看護協会の課題についてどう考えているのかを次の四つの側面について、それぞれ聞いた。

- A. 看護職能の質的向上に関すること
- B. 看護サービスの充実・強化に関すること
- C. 協会組織内に向けての活動に関すること
- D. 社会に向けての活動に関すること

結果は次のようであった。

A. 看護職能の質的向上に関すること<表45>

全体では、「看護教育機関の充実強化」を望む会員が一番多かった。ただし、准看護婦は、「准看護婦養成廃止」「給与等労働条件の改善」を強く望んでいる。

B. 看護サービスの充実・強化に関すること<表46>

全体では、「訪問看護の制度化」を望んだ会員が多かった。訪問看護は現在、医療機関の看護職

表45 会員の考える看護協会の課題

—看護職能の質的向上に関すること—

看護職能の質的向上	会員数	(%)
保助看資格の一本化	218	(7.4)
看護教育機関の充実強化	934	(31.9)
准看護婦養成廃止	541	(18.4)
給与等労働条件の改善	585	(19.9)
看護職員の定員増	372	(12.7)
その他	16	(0.5)
無回答	269	(9.2)
計	2,935	(100.0)

が継続看護の一環として訪問するものと、市町村の看護職が寝たきり老人を主に対象として訪問するものと大きく二つある。訪問看護の制度化という場合、社会保険診療報酬に訪問看護料を設定するということと、現在全国の10分の1の市町村でしか行われていない行政の訪問看護を全市町村に拡大するということの二つの制度化を意味して

表46 会員の考える看護協会の課題（勤務場所別）

—看護サービスの充実強化に関すること—

看護サービスの充実強化 勤務場所	保健所の 充実・強 化	訪問看護 の制度化	看護料金 の増額	外来看護 機能の強 化	付添看護 問題の解 消	その他	無回答	計
病院	7.6	28.4	14.8	11.6	22.5	1.3	13.8	(2,302名) 100.0
診療所	12.3	33.3	1.8	10.5	22.8	—	19.3	(57) 100.0
保健所	68.0	13.6	1.6	1.6	4.0	3.2	8.0	(125) 100.0
市町村	30.7	32.1	3.9	3.9	11.1	3.3	15.0	(153) 100.0
看護教育機関	2.5	43.3	11.0	7.6	17.8	4.2	13.6	(118) 100.0
事業所	20.0	33.3	—	6.7	13.3	6.7	20.0	(30) 100.0
その他	19.1	19.1	16.2	2.9	17.6	2.9	22.2	(68) 100.0
計	11.9	28.3	13.0	10.3	20.6	1.7	14.2	(2,935名) 100.0

注) 勤務場所別の%は、離職中の者を除いたもの。

いる。どちらの訪問看護についても、老人については、昭和58年2月より施行される老人保健法において、一応制度化された。

二番目に、「付添看護問題の解消」を望んだ会員が2割いた。社会問題化していることも、改善を望む背景にあると考えられる。

また、何を一番取り組むべき事項と考えるかは、勤務場所によっても違っている。保健所保健婦は、7割が「保健所の充実・強化」を望み、市町村保健婦は、「保健所の充実・強化」「訪問看護の制度化」を望む会員の割合が同じ位であった。

C. 協会組織内に向けての活動に関すること<表47>

表47 会員の考える看護協会の課題

一協会組織内に向けての活動に関すること一

協会組織内に向けての活動	会員数 (%)
看護業務の内容・質の検討	941 (32.1)
日本看護学会の充実	123 (4.2)
卒後教育の充実	1,176 (40.0)
会員の福利厚生面の充実	216 (7.4)
会員からの相談・問い合わせの対応態勢の充実	58 (2.0)
その他	21 (0.7)
無回答	400 (13.6)
計	2,935 (100.0)

全体としては、「卒後教育(講習会, 研修会等)の充実」を望む人が4割と一番多かった。協会との関わりで一番多かったのも研修, 教育であった。会員の学習意欲の高さと共に, 学習の機会を看護協会に求めていることがわかる。

D. 社会に向けての活動に関すること<表48>

表48 会員の考える看護協会の課題

一社会に向けての活動に関すること一

社会に向けての活動	会員数 (%)
看護相談窓口の開設	793 (27.0)
市民との対話集会の開催	304 (10.4)
中・高校生及び教員に対し看護制度などの説明	255 (8.7)
関係団体との活発な交流	488 (16.6)
マスコミを介し, 看護の重要性を呼びかける	636 (21.7)
その他	35 (1.2)
無回答	424 (14.4)
計	2,935 (100.0)

全体としては、「看護相談窓口の開設」を望む人が一番多かった。職能団体が直接に人々の相談にのることを通して, 社会の人々に看護への理解を深めてもらい, 団体としての発言力を増すことを望んでいるものと考えられる。